

評価確定日(平成 30 年 12 月 6 日)

事業コード	H30-建-新-07		区 間	● 国庫補助 ○ 県単独			
事業名	地方道路交付金事業(改築)		部局課室名	建設部 道路課			
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	調整・企画管理班 (tel)018-860-2483			
路線名等	秋田港アクセス線(仮称)		担当課長名	道路課長 佐藤 秀治			
箇所名	秋田市・秋田港アクセス道路		担当者名	副主幹(兼)班長 柳沢 悟			
プランと の関連	政策コード	04	政策名	秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略			
	施策コード	05	施策名	県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備			
	指標コード	03	施策目標(指標)名	物流・交流拠点へのアクセス機能の強化			
1. 事業の概要							
事業期間	H 31 ~ H 41 (11 年)		総事業費	145.0 億円	国庫補助率 0.6545		
事業規模	延長 L=6,120m 幅員 W=7.0(10.0)m (1.50-3.50-3.50-1.50)						
事業の立案 に至る背景	○ 近年、秋田港では、クルーズ船寄港回数の増加、コンテナ取扱量の増大などにより、港湾を取り巻く情勢が大きく変化しており、平成30年7月に「秋田港港湾計画」を改訂し、情勢変化に対応した港の機能強化を図ることとしている。 ○ 秋田港と秋田自動車道の秋田北ICを結ぶ現況ルートは、滞留長の短い踏切や鋭角な交差点があるほか、渋滞箇所を通過するため、大型トレーラーの走行性や定時性の確保に課題を抱えており、秋田商工会議所や港関係者から、アクセス道路整備の要望を受けている。 ○ アクセス道路の整備は、クルーズ船旅客の周遊ルート拡大といった観光振興や、物流の効率化といった産業振興に寄与し、県の持続的発展に資するものであるため、早期に整備する必要がある。						
事業目的	○ 秋田港と秋田自動車道の秋田北ICのアクセス時間短縮(現況の概ね半分である約10分) ○ 大型トレーラーの走行性が良い道路構造 ○ 時間短縮効果と大型トレーラーの走行性確保による観光・物流振興						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H 3 1 年 度	H 3 2 年 度	H 3 3 年 度	H 3 4 年 度 以 降
	事 業 費		14,500,000	100,000	800,000	1,545,000	12,055,000
	経費内訳	工 事 費	9,515,000			145,000	9,370,000
		用 補 費	3,975,000		400,000	1,000,000	2,575,000
		そ の 他	1,010,000	100,000	400,000	400,000	110,000
	財源内訳	国庫補助	9,490,250	65,450	523,600	1,011,203	7,889,998
		県 債	4,508,600	31,000	248,700	480,400	3,748,500
		そ の 他					
一般財源		501,150	3,550	27,700	53,398	416,503	
事業内容			道路詳細設計、 路線測量、地質 調査	橋梁詳細設計、 用地測量、用地 補償	用地測量、建物 事前調査、用地 補償、土工	用地測量、用地補 償、土工、橋梁 工、構造物工、舗 装工	
調査経緯	○ 平成30年度 道路予備設計						
上位計画での 位置付け	○ 第3期ふるさと秋田元気創造プランにおける重点戦略「秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略」を推進						
関連プロ ジェクト等	○ 「秋田港港湾計画」に基づく港湾整備事業						
事業を取り 巻く情勢の 変 化	○ 「秋田港港湾計画」を改訂(平成30年7月) ○ 秋田商工会議所、秋田港振興会等から当該路線の整備について要望書提出(毎年)						
事業効率把 握の手法	指 標 名	県管理道路改良率					
	指 標 式	改良率(県管理道路改良済延長/県管理道路実延長)					
	指 標 の 種 類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目 標 値 a	79.3 %		データ等の出典	道路課調べ		
	達 成 値 b	78.8 %					
	達 成 率 b / a	99.3 %		把 握 の 時 期	平成 30 年 4 月		

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○ 秋田港では、近年、クルーズ船寄港回数の増加、コンテナ取扱量の増大などにより、情勢が大きく変化していることから、平成30年7月に「秋田港港湾計画」を改訂し、情勢変化に対応した港の機能強化を計画している。 ○ 秋田港と秋田自動車道の秋田北ICを結ぶ現況ルートは、滞留長の短い踏切や鋭角な交差点があり、大型トレーラーの走行性に課題があるほか、渋滞箇所を通過するため定時性の確保に課題を抱えており、秋田商工会議所や港関係者から、アクセス道路整備の要望を受けている。	17 点
緊 急 性	○ 平成30年7月に「秋田港港湾計画」を改訂し、情勢変化に対応した港の機能強化を計画している。 ○ 秋田港と秋田北ICを結ぶアクセス道路の整備は、クルーズ船による来秋客の周遊ルート拡大といった観光振興および、物流の効率化といった産業振興に寄与し、県の持続的発展に資するため、早期に整備する必要がある。	20 点
有 効 性	○ 災害時の物流拠点である秋田港と県内の骨格である秋田自動車道を直結する道路であるため、当然、緊急輸送道路として位置付けることを想定している。 ○ 二次救急医療施設である秋田厚生医療センターへのアクセス向上を間接的に補完する。	13 点
効 率 性	○ 事業の費用便益比は1.13であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 115.7 億円 ・総便益の現在価値 130.5 億円 ○ 計画交通量は5,097台/日である。	15 点
熟 度	○ 秋田商工会議所、秋田港振興会等の団体から当該路線の整備について国および県に要望書提出(毎年) ○ 当該路線の都市計画変更に係る地元説明会を平成30年10月に、秋田市と共同で実施したが、地元住民からは概ね肯定的な意見をえた。	15 点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III) 判定ランクIであり、事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。	80 点
総合評価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 評価結果から事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	○ 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留

4. 財政課長意見

意見内容	○ 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留

5. 最終評価（新規箇所選定会議）

総合評価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

計画的な実施に努める。

7. 公共事業評価専門委員会意見

--

事業コード (H30-建-新-07)
簡所名 (秋田市・秋田港アクセス道路)

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題					
	道路構造上の欠陥箇所数		3箇所以上 2箇所 1箇所 0箇所	17 12 7 0	7	・最小半径<100m (鋭角交差点)
	道路環境上の欠陥該当項目		5件該当 4件該当 3件該当 2件該当 1件該当 該当項目なし	18 14 10 6 3 0	10	・現道の混雑度：1.36 ・現道の旅行速度≤30km/h ・重大交通事故（死亡事故）
	計			35	17	
緊急性	道路をとりまく環境等					
	関連事業の有無		あり なし	10 0	10	・秋田港港湾計画に基づく港湾整備事業
	緊急度の高い課題の有無		あり なし	10 0	10	・秋田港の機能強化にあわせた道路の早期整備
	計			20	20	
有効性	道路の位置づけ					
	緊急輸送路		第1次輸送路 第2次輸送路 第3次輸送路 指定なし	8 7 6 0	8	・第1次輸送路を想定
	救急医療施設へのアクセス		直接アクセスする 間接的に補完する アクセスへの貢献は小さい	7 5 1	5	・間接的に補完 秋田厚生医療センター
	計			15	13	
効率性	事業の投資効果等					
	費用便益比(B/C)		1.0以上 1.0未満	10 0	10	・B/C=1.13
	計画交通量		5,000台/日以上 1,000台/日以上～5,000台日/未満 1,000台/日未満	5 3 0	5	・5,097台/日
	計			15	15	
熟度	地元の状況					
	地元ニーズ		文書要望あり 口頭要望あり 要望なし	10 5 0	10	・地元商工会議所、港関係者から文書要望あり
	地域の協力体制		あり なし	5 0	5	・道路整備事業に先がけ秋田市が地籍調査実施
	計			15	15	
合計				100	80	

ランク	判定内容	配 点	判定	摘 要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		